

2020年度第2回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2020年12月7日(月)10:00~12:10
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点のTV会議端末拠点及びSkype
3. 出席者:横山委員長、大久保委員、長沢委員、田澤委員、三宅委員、小林委員
(※大久保委員はアメリカからSkypeで参加)

4. 審議概要:

- (1)2020年度第1回契約監視委員会議事要旨の報告
事務局より前回委員会議事要旨について報告があり、了承された。
- (2)2020年度第1回契約監視委員会アクションアイテムの報告
 - ① 2020-2024年度BPO契約進捗状況について
調達・財務BPOチームより、資料2をもとに説明があり、了承された。
- (3)2020年度調達等合理化計画の第2四半期実施状況の報告について
調達部より、前回報告と比べて変わった点を中心に、第2四半期分の随意契約や一者応札・応募の各契約実績と前年度同時期との比較の説明、及び他の取組に関する実施状況の報告があった。委員からは、プロセス改善の説明で競争的対話について時間優先ではなく達成度を重視とあるが、どうやって達成度を図るのかという質問があり、JAXAから提案する提案書、業者から提案された提案書、それぞれについて理解を十分にし、お互い認識が同じであることを確認することをもって達成とする旨の回答があった。
- (4)2020年度第2四半期に新規に締結した契約の点検
2020年度第2四半期に新規に締結した随意契約及び一者応札・応募となった案件のうち、契約金額が大きいもの、複数の仕様書受領があったものを中心に点検を受けた。その結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。

その他

- ・次回の委員会は、4月9日に開催することとした。

第2回 2020年12月7日

競争性のない随意契約			3件	① ライダーを用いた機体動揺低減制御システムの飛行実証 ② はやぶさ2データ検索システムの制作 ③ 有人月探査システムの研究(そのア)
競争入札	一般競争	価格評価	3件	④ 角田宇宙センター西地区法面復旧工事(2020) ⑤ 2020年度下期～2022年度上期 JAXA 文書管理運用支援業務支援業務 2020年度下期～2022年度上期 輸送系プロジェクト文書管理運用支援業務 ⑥ 人事事務手続請負

主な質疑等は以下のとおり。

① ライダーを用いた機体動揺低減制御システムの飛行実証

[競争性のない随意契約]

本件は、JAXA が開発した乱気流検知技術及び突風応答軽減制御技術からなる機体動揺提言制御システムの飛行実証を行うものである。

本契約については、実験用器材を搭載した状態で飛行試験が可能な実験用航空機を有すること、当該機への JAXA ライダー装置の搭載が可能であること、JAXA の制御アルゴリズムを搭載可能な飛行制御システムを有することが必要であるが、実験用機材を搭載するために必要な技術情報を有し、利用者が提案する制御アルゴリズムを搭載可能な飛行制御システムを有する実験用航空機を有するのは世界中で2社だけであり、うち1社は操舵範囲が限定的で、今回予定する制御アルゴリズムについては搭載できないことから、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第 69 条第1項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、選定の根拠となった操舵性の違いと、技術的な評価をどこで行った

のかについて質問があり、選定から外れた社の操舵性については、操舵範囲が限られていて±5度程度までであるのに対し、選定した社の操舵性についてはその制約がなく、実際の物理的なフルの上下限まで触れるという違いがあり、現在提案しているアルゴリズムとしては±5度程度では足りないという評価を研究事業の評価会で示しているとの説明があった。

② はやぶさ2データ検索システムの制作

[競争性のない随意契約]

本件は、「はやぶさ2」の成果最大化のためにデータ(画像)を一般公開するため、ウェブブラウザ上で動作するはやぶさ2データを検索するシステムを制作するものである。システム制作にあたっては、「はやぶさ2」に搭載されている光学航法カメラ(ONC)のデータに地理空間情報を与えたうえでシステム構築を図る必要があるが、そのためには、降下運用におけるONCのデータから岩やクレーターといった特徴点(GCP)を選定・抽出する技術情報と実運用にて小惑星リュウグウ上の特徴的な地形を抽出・選定するための技術情報が必要であり、上記技術情報については業者保有の非開示情報であることから提案業者以外に実施することができず、「人工衛星、ロケット等の飛翔体、航空機等又はこれらに係る設備の製造設備、製造技術又は運用技術等を必要とする契約であって、当該設備又は技術を有する者が一に限定されるとき(契約事務実施要領第69条第1項(ウ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、選定理由として、共同研究を行ったということが大きな根拠となっているが、共同研究を選定業者と行うという判断は、どこでどのようにして行われたのかの質問があり、選定業者は「こうのとりのぼろ」等の運用を行っており、当該業務で得られた技術が「はやぶさ2」の降下運用にも効果的に使えるだろうという背景から研究所での会議の中で了解が得られたとの回答があった。これに対し、研究所の会議において公平なトレードオフが取られていることを確認したいとの要望があり、後日事務局に資料を提出することとなった。

③ 有人月探査システムの研究(そのア)

[競争性のない随意契約]

本件は、昨年度実施した有人と圧ローバに対する全体システム設計、与圧キャビン・構造設計、電源系システム設計、熱・環境制御系システム設計ならびに推薬生成プラントの全体システム設計についての詳細化を引き続き実施する研究開発である。提案業者は昨年度上記システム設計等を担当しており、昨年度実施した概念検討の結果得られた技術の蓄積が無ければ、再度概念検討から実施する必要があるが、経済的・技術的・時間的に著しく非効率であり不利となり再度実施す

ることは困難であることから、提案業者は必要条件を満たす唯一の業者であるため、「継続的な研究開発に伴い締結する契約であって、過去の機構との契約において契約相手方に蓄積された技術等を活用するものであり、かつ当該相手方以外に実施させることが技術的、時間的又は経済的な理由により困難であるとき(契約事務実施要領第 69 条第 1 項(エ))」を適用し、随意契約としたことの説明が担当者よりあった。

委員からは、過去2年参加者確認公募をされているが、最近参加する企業なりベンチャーなり増えてきており、全部は無理でも個々の部分ならやりたいというベンチャーも現れてくるのではないかと思うが、このまま随契でいくのか質問があり、ベンチャーは、小型衛星や打上げロケットというところには入ってくるものの、有人と圧ローバは、宇宙飛行士が2人なり4人なり乗車する大きなサイズとなっており、同じく推薬生成プラントも月面で大きなプラントを作っていくことになるのでISSなどで実績がある重工が強みを有していることについて説明があり、例えば車のタイヤについては、地上のタイヤメーカーもたくさんあるので参加する可能性はあるかもしれない旨の説明があった。

④ 角田宇宙センター西地区法面復旧工事(2020)

[一般競争・価格評価方式]

本件は、2019 年台風 19 号によって法面に変状を生じた角田宇宙センター西地区管理棟裏の法面について、法面保護工事を実施するものである。入札公告期間を 38 日確保し、入札参加条件も土木一式工事 B~D 等級と業者が参加しやすい条件としたが結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、同じ台風 19 号により大きな被害を受けた関東地方から東北地方における災害復旧工事の増加に伴う施工業者の不足が考えられるが、今後、競争参加資格のさらなる拡大等、業者が参入しやすい条件を引き続き検討する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、台風 19 号は 2019 年の 10 月に発生し、今回の公告は 2020 年の 9 月でほぼ 1 年後だが、もう少し業者が入りやすいように時期をずらすとかといった判断はなかったのか質問があり、台風直後に応急処置の工事をしてしたが、応急処置を終えて本格的に設計をし、どのような工事をするか検討した結果、今回この時期になった旨説明があった。また委員から、特にこうした緊急性を要する災害対応については、積極的に応札してもらうような働きかけが必要とのコメントがあった。

⑤ 2020 年度下期~2022 年度上期 JAXA 文書管理運用支援業務

2020 年度下期~2022 年度上期 輸送系プロジェクト文書管理運用支援業務

[一般競争・価格評価方式]

本件は、JAXA 職員が作成または取得した、紙文書または電子ファイル(以下、「文書」という。)を、全社的に蓄積・管理し、有効に活用するための環境を整備することにより、職員の業務の効率化を図ることを目的とするもので、「JAXA 文書管理支援業務」については、入札公告期間を65日確保し、複数社の説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。また、「輸送系プロジェクト文書管理運用支援業務」については、入札公告期間を40日確保したが、一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、両契約とも業務履行に必要となる人員確保ができない等の業者側都合によるものであるが、今後は登録する文書を電子化し効率化することで作業員の削減を図ることにより、業者参入機会を図ることを検討する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、デジタル化して紙を無くしていくという方向性を見失わないことが大事で、文書電子化の加速によりこの契約期間内で紙が激減することで、業者が想定している金額に達しないという可能性もあるのではと思うが、そうしたことへの対処についてはどのように考えているか質問があった。担当者からは、契約の中でも作業の変化による減額については業者にも話しており、急激な変化がどの程度影響するかは分からないが、紙で今まで蓄積されていた文書が多数あるので、必要に応じ、当該文書に関する作業を本契約で実施することも考えられる旨の説明があった。

⑥ 人事事務手続請負

[一般競争・価格評価方式]

本件は、JAXA 各部門・各部等で行われている内部管理業務について、プロパー職員の内部管理業務工数を削減することにより、プロパー職員の工数を研究開発業務及び JAXA の環境変化に応じて再定義された高付加価値業務に振り向けられる状況を作ることを目的として、人事事務手続業務についてアウトソーシングを行うもので、入札公告期間を43日確保し、複数社の説明書受領があったものの結果として一者応札となったものである。一者応札となった要因としては、スケールメリットが生じるには規模が小さく、契約期間も限られていることが考えられ、今後は業者への声掛けを行うとともに、契約期間を延ばすなど、新規参入へのメリットを感じられるような仕様内容を検討する旨の説明が担当者よりあった。

委員からは、請負業務としてこの業者にノウハウなどが蓄積されていて、業者が変わると削減効果がなくなるところがあるかどうか、業務によっては一者応札が続けば随意契約にしてより習熟効果を上げるという方策もあるのではとの質問があり、業務内容については人事業務マニュアルに落とし込んでおり、できるだけ属人性の排除を図っていて、現時点で随意契約にするのは難しいとの説明が担当者よりあった。

以上